

【ポスター発表】

医療的ケアを必要とする人へのケアから考える介護福祉士の専門職性
—SCAT手法を用いた介護福祉士へのインタビュー調査—

○ 神戸女子大学 木村 あい (6817)

高岡 理恵 (華頂短期大学・7852)、吉島 紀江 (平安女学院大学短期大学部・8255)、

吉藤 郁 (花園大学・9081) 伊藤優子 (6527)

キーワード：介護福祉士・医療的ケア・専門職性

1. 研究目的

介護老人福祉施設には、介護のニーズはもとより医療ニーズの高い重度者が増加している。2012年4月から「社会福祉士及び介護福祉士法」の一部改正により、一定の条件のもとでの「介護職等」による「医行為」が業務として実施可能となった。

このような背景のもと、介護職が医療的ケアを行うことで、利用者の生活が守られ、QOLの向上に繋がるということに立脚しなければ、介護は専門職性から遠ざかるのではないかと危惧している。

現在実施されている医療的ケア研修は、手業を教え込み、安全に行うための知識、演習の組み合わせである。そのため、介護職が医療的ケアを行う有用性があるという教育内容が反映されたものではない。

本研究では、医療的ケアを実践する介護福祉士の語りを通して、介護福祉士の専門職性について整理することを目的とする。

2. 研究の視点および方法

事前に行った質問紙調査により、研究協力が得られた近畿圏介護老人福祉施設6施設で8年以上勤務している介護福祉士に協力を得、半構造化面接を実施した。質問項目は「医療的ケアを行う前に行っている具体的な援助方法」「医療的ケアへの考え方」等を設定し、事前に研究協力者に知らせた上で訪問した。調査はICレコーダーによる録音の承諾を得た。期間は、平成27年9月～11月である。分析方法は、大谷(2007)による「SCAT;Steps for Coding and Theorization」の手法を用いた。

3. 倫理的配慮

科学研究助成の申請手引きに基づいた「研究実施計画申請書」を華頂短期大学に提出し、2014年12月第8回教学協議会・学科長等会において倫理的妥当性が確保されている承認をうけた。本研究の主旨と調査が任意であること等倫理的配慮を示した書面で説明した。

4. 研究結果

8年以上の介護福祉士の発話データ全体は「12」のテキストに切片化され、「18」の構成概念とそれを紡ぎ合わせた一つのストーリー・ラインが形成された。

ストーリー・ラインは以下の通りである。

特養の入所要件「要介護3以上」や医療的ニーズの拡大に伴い、社会からの要請として、介護福祉士が従来の職域を越えた職務内容となった。 吸引器の管理を含めた、「法と使命」との間ではがゆさ、もどかしさ感じているが、「利用者のQOL向上」のために医療的ケアを引き受けている。介護の質の担保には、手業だけの習得の限界があるため、形式知の獲得による自信と価値に裏付けられた技術・介護過程の展開が必須になっている。利用者主体で暮らしぶりの追求をしていくことで その使命をもち、福祉の視点を持った確固たる専門職としての立場を確立することができる（表1参照）。

表1：SCATによる分析の一部

番号	発話者	テキスト	<1>テキスト中の注目すべき箇所	<2>テキスト中の箇句の言い換え	<3>左を説明するようなテキスト外の概念	<4>テーマ・構成概念（前後や全体の文脈を考慮して）	<5>疑問・課題
138	s	暮らしを支えるところが介護職ならだと思っているので、その人の人となりとか暮らしぶりとかその辺にフォーカスして支援できる人にはいつも心掛けています。そこは看護師でもSTでも誰でも持っている気持ちはあると思いますが、そこを取られたら介護職は何もないと思うくらいに思っています。そこだけは負けないように、皆と一緒に、そうやっていこうと言えらるくらいでありたいと思っています。この職員は看護師もSTもみんななんかそのような気持ちを持っているので、ときどき危機感を感じるんですけども、いいことなのですが、じゃあ介護職は何かとなると考えちゃうことがあるんです。まあやっぱりそこを追求していくし、一番長い時間お年寄りのそばにいられる立場だと思っているので、そこは負けないかな、負けないというより、その辺を深めていける専門職だと思っています。	暮らしを支えるところが介護職ならだ その人の人となりとか暮らしぶりとか フォーカスして支援 そこを取られたら介護職は何もない そこだけは負けないように 皆と一緒に 危機感を感じる そこを追求していく 一番長い時間お年寄りのそばにいられる立場 その辺を深めていける専門職だ 思っています。	介護職の専門性 個別支援 利用者主体 自己実現への支援 そこだけは負けない 追求 利用者との長時間関われる 寄りそう	介護職のアイデンティティ 利用者の固有性・個別性 暮らしぶり ゆらぎ・確固 密接（距離・時間） 専門性の追求 関係性を深める その人を中心	介護職の専門職性 暮らしぶりの追求 介護過程の展開 関係性を深める ゆらぎ 確固たる専門職としての立場 利用者主体 利用者中心	

5. 考察

介護福祉士の語りを通して、医療的ケアを行う介護福祉士の専門職性を以下の3点に整理した。

- ・利用者主体での暮らしぶりの追及が介護福祉士としての使命であり、その追求が、福祉の視点をもった確固たる専門職の立場の確立につながる。
- ・医療的ケアでは、「法と使命」との間ではがゆさ・もどかしさを感じているが、「利用者のQOL向上」のために必要だと気持ちを整理している。
- ・介護の質の担保には、手業だけの習得では限界があり、形式知の獲得による自信と価値に裏付けられえた技術、まさに介護過程の展開が必要であると改めて認識している。

引用文献

大谷尚（2007）「4ステップコーディングによる質的分析手法 SCAT の提案—着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き—」名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要,第54巻第2号.

本研究は、科学研究費助成事業（課題番号：26380828 研究代表者：高岡理恵）の研究の一部である。